

CHOHO

広報誌 [長報:チョーホー]

Vol. 22

2008. January WINTER

Since 2002



特集 長崎大学 医学部創立150周年



<CONTENTS>

《特集》

長崎大学
医学部創立150周年 2

《留学生のキャンパスライフ》

ニー・ライミナ さん
(カンボジア王国) 8

《We Love Circle》

長崎大学 落語研究会 9

《いいたか放題》

長崎県高等学校長協会会長
寺田隆士 さん 10

《フィールド通信》

ケニアの空の下で 12

《自然災害を考える》

長崎の安全と安心
～地震～ 15

《長大ニュース》

18

《古写真・はし万華鏡》

濃尾大地震
(東海道本線長良川鉄橋)(21) 20

《インフォメーション》

21

《編集後記》

21

◎本紙記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌CHOHO〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。

学長コラム

大学のポテンシャルと ランキングとの関係

昨年11月に、学生主催の学園祭(第38回長大祭)が盛大に行われました。学生諸君が企画する「学長とのしゃべりの場」があり、率直な意見交換を毎年行っています。私は学生に質問を二つ投げかけました。

「全国705校の国公私立大学ランキングで、長崎大学は何番ぐらいだと思っ？」ところが、学生は申し訳なさそうにしている、なかなか答えられません。「遠慮しないで、思っているところを正直に言っごらんですよ。」半ば勇気をふりしぼってという様子で出てきた答えは、「真ん中よりは下ではないですか？エート、400番くらいですか？」「エエッ!？」と私は思わず声を上げてしまいました。

なぜ、この質問を学生にしたかということ、先日、世界レベルの大学ランキングが発表されたからです。世界で最も有力な高等教育誌の一つであるイギリスのTHE S(The Times Higher Education Supplement)誌「ならびに世界の高等教育や専門職向け就職情報を専門に扱うQS(Quacquarelli Symonds)社が共同で行った「世界トップ大学5000ランキング07」で、長崎大学は世界で273位、国内14位でした。昨年の同調査では世界277位、国内18位だったので、今年の成績はブロックではありません。長崎大学は日本で400番どころか、世界でもベスト300に

養生所・医学所の由来

1857年11月12日(安政4年9月26日)、Dr. Johannes L.C. Pompe van Meerdervoort は、長崎奉行所西役所(現在の長崎県庁所在地)内において、日本で最初の西洋医学の講義を始めた。長崎大学医学部誕生の日である。Pompe は、間もなく大村町11番地(現在の長崎家庭裁判所所在地)に設けられた医学伝習所に移り、医学の講義を続けていたが、臨床医学の実習に必要な病院の設立を強く懇請していた。幕府もその建議を容れ、小島町字佐古(現在の佐古小学校所在地)に洋式病院の養生所を、またその西隣に医学所を建設した。

1861年8月6日(文久元年7月1日)に落成式、同年9月20日(8月16日)に開院式および開校式が行われた。日本の国旗が養生所の東棟南端に、また三色のオレンジ国旗が西棟南端に翻り、ここに Pompe が希求していた医学校が完成したのである。

長崎大学長 **齋藤 寛**
Saito Hiroshi

追伸：
学長メッセージ(<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>)にもアクセスしてご意見をください。
[メールアドレス]president@ml.nagasaki-u.ac.jp
必ずお返事します。



入っている大学なのです。

もちろん、私は「ランキング至上主義者」ではありません。ランキングは、実施する側にさまざまな意図があります。評価基準もさまざまなので、「ランキングで上位になることが善く、下位にいるのが悪だ」という発想は短絡的だと思つたのです。大学の個性を埋没させ、組織がもつ科学の創造のための多様性を否定しかねません。

では、なぜここでランキングの話題を取り上げるのかというと、それは、過小評価されがちな中規模大学、とりわけ地方の大学が、実は高いポテンシャルを持っていることの「証し」にはなるからです。旧帝大・大規模大学だけが高いポテンシャルを持つ「世界拠点大学」ではないのです。

THESES・QSによる大学ランキングでは「教員一人あたりの研究業績」、また「教員一人あたり学生数」、「留学生比率」など、大学の規模によらない数値も採用しており、予算規模、教員数、学生数などが多い大学が有利になるような指標をできるだけ排除しようとしているところに特徴があります。日本の大学に限って順位をみると、東大(17位)、京大(25位)、阪大(46位)、東工大(90位)までが世界ランキング100位以内(4大学)、東北大(102位)、名大(112位)、九大(136位)、北大(151位)と150位まで旧帝国大学が続いています。その後、慶大(161位)、早大(180位)と「私学の雄」が名を連ね、神戸大(197位)までが200位以内(11大学)になっています。そして、筑波大(209位)、広島大(212位)の次に、わが長大が273位(国内14位)でランキングしている状況です。

長崎大学より上位は全て学生数1万人を超える大規模大学であり、かつ所在地が大都市(大都市圏)にあります。地方大学としては長崎大学がトップであることを私は誇りに思います。大学の価値は入試偏差値で決定されるのではなく、当該大学が「学生教育にどれだけ真剣であるか」と、学生が獲得する「学びを成果」の2点が重要であると私は信じています。

昨年12月11日、文部科学省から国立大学教育学部(教育大学を含む)全48校の平成19年3月卒業生教員採用率が発表されました。長崎大学は全国4位(70.2%)でした。平成14年度は31位(47.4%)、同15年度20位(56.5%)、同16年度11位(61.2%)、同17年度7位(65.2%)と、年々採用率は向上しています。教育学部は教員養成に特化している学部です。このランキングは教育学部学生の「学びの成果」を明示していると思いませんか？

長崎大学医学部創立150周年

伝統と誇りを受け継ぎ、医学のさらなる発展へ



【養生所】(ボンベ著「日本における五年間」の口絵)

1861年9月、長崎大学医学部の前身である「養生所」が完成。良順が頭取、ボンベが教頭に就任した。その隣に医学所(医学校)が隣接。日本で初の近代西洋医学教育病院となった。



【松本良順(1832~1907)】
(長崎大学附属図書館所蔵)

ボンベに蘭学を学び、後に明治政府の初代軍医総監となった。



【ボンベ(1829~1908)】
(長崎大学附属図書館所蔵)

長崎大学医学部の創設者。「近代西洋医学の父」と呼ばれている。



【大正時代の講義風景】

(長崎大学附属図書館所蔵「卒業アルバム」より)



【ボンベ・良順と学生の集合写真】

(長崎大学附属図書館所蔵)

前列右がボンベ、左に松本良順が座っている。

当時のオランダ軍医ボンベ・ファン・メルデルフ・フォルトが、松本良順以下12人の日本人に、長崎奉行所内の医学伝習所で西洋医学教育を開始。11月12日、この日が日本における西洋医学教育の始まりであり、長崎大学医学部の創立記念日となった。

1901	1878	1874	1871	1868	1865	1862	1861	1857
明治34年	明治11年	明治7年	明治4年	明治元年	慶応元年	文久2年	文久元年	安政4年

1901
「長崎医学専門学校」設置
(第五高等学校医学部の変遷)

1878
「長崎医学校」再興
(吉田健康が再興)
●88年、第五高等学校医学部に変遷
●94年、第五高等学校医学部に変遷

1874
「長崎医学校」廃止

1871
「長崎医学校」設置
(長崎府医学校の変遷)

1868
「長崎府医学校」設置
(精得館の変遷)

1865
「精得館」設置
(養生所・医学所の変遷)

1862
ボンベの後任として
ボードインが養生所教頭就任

1861
「養生所・医学所」設置

1857
医学伝習所にてボンベが
西洋医学教育開始



【人体解剖模型・キュンストレーキ】
(長崎大学附属図書館所蔵)

ボンベが解剖学講義に使用した紙製解剖模型。1945年8月9日原爆投下時、焼失せずに奇跡的に助かったが、傷みは激しい。

いったん廃止された長崎医学校は吉田健康によつて再興。1892年には建物も現在医学部のある坂本に新築移転した。

江戸で医学を学び、その後長崎の精得館の長にもなった相良知安は、当時最も進歩していたドイツ医学の採用を主張。その後、明治政府はオランダ医学に代わりドイツ医学を採用した。政府は台湾出兵にあたり長崎医学校を廃止。学校附設の「長崎病院」を兵員病院とした。



【長与専斎(1838~1902)】
(『松香遺稿』より)

長与専斎はボンベとボードインに学び、1868年に精得館頭取、1875年に内務省衛生局長となり、日本の衛生行政に貢献。



【ボードイン(1820~1885)】
(長崎大学附属図書館所蔵)

ボンベの師、アントニウス・ボードインは特に眼科を得意としており、日本に検眼鏡を最初にもたらした。

国内初の西洋医学教育が長崎大学医学部の前身である長崎医学伝習所で行われてから150年。以来、がんや心臓病・脳卒中の治療や再生医療など、日本の医学はめざましく進歩しています。今回は、西洋医学の発祥とともに誕生から150周年を迎えた長崎大学医学部を紹介します。



【被爆直後の長崎医科大学附属医院】

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原研提供)

浜口町南東部及び岩川町北東部付近からみた長崎医科大学附属医院全景。



【斎藤茂吉(1882~1953)】

(長崎大学附属図書館所蔵『卒業アルバム』より)

1917年に長崎医学専門学校精神病学教授となる。1921年欧州留学に出発するまでの約4年間その教授を務めた。



【相良知安(1836~1906)】

(『東京帝国大学50年史』より)

ボードインの弟子で、精得館の医師頭取。その後、文部省医務局長などを務め、ドイツ医学を日本で採用した。



【被爆直後の長崎医科大学基礎キャンパス】

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原研提供)

1945年8月9日午前11時2分、長崎医科大学から700メートル離れた浦上上空で炸裂した原子爆弾は、一瞬にして医科大学の校舎、多くの附属医院病棟を破壊炎上させ、ほとんどすべての資料や設備を失わせた。教職員、看護婦、学生約890人が犠牲となった。

基礎キャンパスの多くの講義棟は木造であり、講義を受けていた学生たちは、瞬時に熱線で焼かれ、教授の遺骨を前に、学生の遺骨が整然と並んでいた。鉄筋コンクリート造であった附属医院の中では5割の人は生存できたが、基礎キャンパスでの生存者は12人に過ぎなかった。

2007 平成19年 | 2002 平成14年 | 2001 平成13年 | 1962 昭和37年 | 1955 昭和30年 | 1949 昭和24年 | 1945 昭和20年 | 1942 昭和17年 | 1940 昭和15年 | 1923 大正12年

- 2007 医学部創立150周年
- 2002 「大学院医歯薬学総合研究科」設置
- 2001 「医学部保健学科」設置
- 1962 「原爆後障害医療研究施設」設置
- 1955 「大学院医学研究科」設置
- 1949 「長崎大学医学部」設置
- 1945 長崎医科大学・附属医院壊滅状態
- 1942 「附属東亜風土病研究所」設置 (現熱帯医学研究所の前身)
- 1940 「臨時附属医学専門部」併置 4年後「附属医学専門部」と改称
- 1923 「長崎医科大学」設置 (長崎医学専門学校の昇格による名称変更)



長崎大学医学部・歯学部附属病院新病棟



【永井 隆(1908~1951)】

(永井隆記念館より)

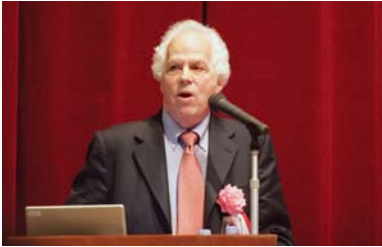
放射線医として長期にわたる放射線被ばくで、白血病になるが、原子爆弾投下直後より救護班を組織し、被爆者の救護にあたった。

当時の第11医療隊長の永井隆助教授は、被爆後、行った診療の詳細な記録「原子爆弾救護報告」を残している。原爆による外傷、熱傷、そして急性原爆症の医学的な記録で、原爆の医学的被害記録の原点といふべきものになっている。1946年に長崎医科大学教授に就任。その後、白血病で病床に伏しながら「長崎の鐘」や「この子を残して」などを執筆した。

【長崎大学医学部・歯学部附属病院新病棟】

医学部創立150周年と時を同じくして、現在新しい病棟の建設が進んでいる。今年6月に開院予定。

記念式典・記念講演



「プリオンと神経変性病」について講演を行う
スタンレー・プルシナー氏
(カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部教授)



「幕末期の日本と洋学～開国における国際法の
受容を中心として～」の講演を行う
小和田恒氏(国際司法裁判所判事)



記念式典の様子

2007年11月10日、長崎大学医学部記念講堂にて、「西洋医学教育発祥150年・長崎大学医学部創立150周年合同記念式典」を開催しました。関係者約500人が参加した式典では、文部科学大臣政務官や在日オランダ大使等から祝辞をいただきました。その後行われた講演会では、ノーベル生理学・医学賞受賞者であるスタンレー・プルシナー氏(カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部教授)、小和田恒氏(国際司法裁判所判事)による記念講演が行われました。

プルシナー氏は、ヒトや動物に神経変性疾患(クロイツフェルト・ヤコブ病)を引き起こすプリオン(感染能を持つタンパク質因子)について講演。プリオンの発見から今後行われる研究により、長年効果的な治療法が発見されていない神経変性疾患の治療法に大きな期待が持てることを述べられました。

また、小和田氏は、鎖国時代に行われた日蘭両国の交流が、日本のさまざまな学術発展に大きな役割を果たしたことを中心に、幕末期の日本の近代法律学の発展と、国際法について講演をされました。

両講演は、医療技術の進歩や医学界に数多く存在する問題点に触れ、関係者をはじめ、出席した教員や学生など熱心に耳を傾けていました。

「良順会館」竣工



国際会議場「ボードインホール」

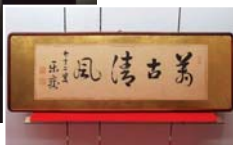


2007年12月17日、医学部キャンパス内に「良順会館」が誕生しました。ここでは、医学部が行う各種講演会やシンポジウムをはじめとし、各種講義なども行われます。この会館は、1857年(安政4年)、長崎奉行所内の医学伝習所において、オランダ軍医であったボンペから日本人として初めて西洋医学教育を受けた松本良順の名にちなんで「良順会館」と名付けられました。ここに足を運ぶ医学部生が、長崎で西洋医学を学び、医学の普及活動で貢献した良順のように、医学をもってさまざまな場所で活躍できる人材になるようにという願いも込められています。

また、良順会館内には215人収容できる国際会議場や、医学部の変遷に関する史料を集めたミュージアム(一般公開)も設けられています。



ミュージアム



松本良順直筆の書

医学部生による「医学展」開催

3年に1度開催される長崎大学医学部生による「医学展」が創立記念にあわせて開催されました。この企画は一般市民の方に医学部生が日頃学んでいることや感じていることを知ってもらおうと開催されているもので、今回も多くの市民の方が医学展を訪れました。

医学部
全学年

慰霊碑の丘を
虞美人草でいっぱい

「グビロが丘」再生プロジェクト



「グビロが丘」を訪れ、慰霊碑に手をあわせる卒業生ら。



慰霊碑のある医学部裏手の小高い丘「グビロが丘」に現役医学部生と虞美人草の種を蒔く卒業生ら。



「グビロが丘再生プロジェクト」を企画した
医学部5年 田口 正剛さん

原爆後、かろうじて生き残った学生や教員たちが助けを求めて登ったとされる「グビロが丘」。ここには、当時この場所で亡くなった方々の遺骨が葬られ、慰霊碑が建てられています。志半ばで亡くなった先輩方へ追悼の意を表すため、現医学部生が「グビロが丘」再生プロジェクトを企画。当時、虞美人草（ヒナゲシ）の花で覆われていたという「グビロが丘」をもう一度甦らせようとする準備を進めてきました。初夏に満開の花で覆われた「グビロが丘」が見られるよう、今後、医学部生によりこの丘の手入れが続けられます。



遺骨を拾って最初の慰霊碑を作った当時の様子を語る 濱里 欣一郎さん

3年生
主催

医療機関で行われる健康診断を実施

TRY!健康診断



5年生
主催

医学部生がAED装置の使い方を伝授

一次救命処置・AED



医学部
全学年

熱帯医学研究所がある長崎大学ならではの企画

寄生虫展

海外はもちろん、身近に潜む寄生虫の生態を公開。顕微鏡で見る寄生虫の姿に驚きの声も!



「医学展」実行委員
医学部5年 伊達 有作さん

4年生
主催

手術で使われる機器を導入して手術室を再現

疑似医療体験



実際にモニターを見ながら、手術で使われる道具や機器を、さわったり動かしたりできる企画に訪れた高校生も興味津々。

「医一療の一現一場」からレポート 島・島民から学ぶ医療



大学院医歯薬学
総合研究科
前田 隆浩 教授
Maeda Takahiro

日本は数多くの島々からなる島国ですが、600余の離島を有する長崎県には、実に55の有人離島があり、県土の約4割を占める離島に県総人口の10.6%にあたる約15万6千人が暮らしています。離島というと、過疎や医師不足などとかくマイナスのイメージで取り上げられることが多いのですが、豊かな自然と美しい、温かい住民気質といい、離島ならではの魅力が沢山あります。平成5年4月から約3年間、五島市にある五島中央病院で勤務した際には、こうした離島の良さを充分満喫させてもらい、その経験を買われて

今度は離島医療研究所の所長として五島に舞い戻ってきました。

長崎県の離島では、地域中核病院を中心とした完結型の医療を目指した取り組みがなされており、さらには離島の医療機関と本土の支援病院とが連携した広域医療ネットワークが極めて有機的に機能しています。しかしながら、住民の医療に対する不安は依然として大きく、実際に働いてみると、離島医療に従事している医師やそれを支援する大学医学部に向けた島民の切実な思いを感じます。こうした住民の期待に直に伝えることができる点、離島での診療は大変やり甲斐のある仕事



離島では診療所での診察だけでなく、患者とゆっくり散歩をしたり、雑誌などを通して、患者のトータルケアも行われている。

だと思えます。

長崎大学医学部では、地域医療を教育する先進的な取り組みとして、医学部5年生全員が離島に滞在して保健・医療福祉の現場で学ぶ、全国でも例のない教育プログラムを平成16年より取り入れています。実際に離島での地域医療に接するこの経験は、自分の将来や求める医師像を考える上で大きな示唆を与えてくれるに違いありません。

高度先進医療に挑む医師や生命科学研究に専念する医師、そして地域医療を担う臨床医など様々な医師がいて、それぞれに社会から大きな期待が寄せられています。どの道を選択するにしても、ポンペ先生の言葉「医師は自分自身のものではなく、病める人のものである」の通り、患者の切実な願いに応える大切な使命を胸に、選んだ分野に専心して取り組んでもらいたいと思います。そして、離島やへき地など、医療に恵まれない地域の医療活動を通して、その問題解決に信念を持って挑む医師が一人でも多く誕生してくれることを期待しています。



▲患者と家族のように接しながら進められる島の医療活動。実習では、専門医と治療方針を決める遠隔システムや本土で緊急手術がある場合のヘリコプター搬送なども体験する。

◀小離島への定期的な巡回診療に同行し、へき地医療の実際を学ぶ。



◆長崎大学に留学したきっかけは何ですか？

私はカンボジアの大学で水産全般のことについて学んできました。そもそも、水産について学ぼうとしたきっかけは、カンボジア人の食文化にあります。カンボジア人は普段から魚介類を食べていますが、その食べ方は生食がほとんどです。例えば市場で魚が余れば、それらは全て廃棄処分されている状況です。日本のように加工して日持ちを良くして後で食べるような習慣はありません。また、多くの人々が魚介類の持つ毒についての知識が乏しいため、警戒心がなく、食べた後に病気を発症したり死亡する事例が後を絶たないという問題もあります。

このようなカンボジア人と魚介類の関係を注目した研究を行いたいと思い、長崎大学への留学を決めました。

◆現在の研究テーマを教えてください。

修士課程では養殖や加工について研究を行ってきましたが、現在の博士課程では魚介類の持つ毒(特にフグや甲殻類)についての研究を行っています。魚介類の毒についてカンボジア人の多くは知識が少ないので、珍しい魚でも好奇心で食べてしまうことがあります。実は、専門家でも毒を持っているかいないかの判断が難しい魚介類はたくさんいるのです。

そこで、カンボジア周辺で獲れる魚介類にはどのような毒を持っているものか、その毒が人体にどう影響するのかを明らかにするため、現地で魚介類のサンプリングを行い、長崎大学で研究を行っています。

留学生のキャンパスライフ



実習で製造中の魚の缶詰 (水産学部内)



沖縄の石垣島で捕獲した魚、カニ、貝の選別作業 (長崎丸船内)



乗船実習から長崎へ戻った時の記念撮影

長崎大学で学んだことや経験を
カンボジアで活かすことが目標です。



「休日によく友達とサッカーをします。日本と同様、カンボジアでもサッカーは国民に人気のあるスポーツ。サッカーの試合をみるとわくわくします。」



インドシナ半島の中央に位置し、タイ・ベトナム・ラオスと隣接しているカンボジア。メコン川と東南アジア最大の湖であるトンレサップ湖の自然の恵みをはじめ、世界遺産であるアンコール・ワットなど数々の貴重な遺跡群や美しい建物が存在する情緒に富んだ王国です。

ニー・ライミトナ さん
NGY LAYMITHUNA
生産科学研究科博士後期課程3年

◆学生生活で得た新たな発見はありますか？

去年の夏、長崎大学の海洋実習船「長崎丸」に乗り、他の研究生とともに、長崎・沖縄間の海洋で2週間の実習を行いました。その時に初めて沖縄を訪れましたが、どことなく、沖縄の雰囲気や故郷に似ていると感じました。「長崎丸」での実習も忘れられない思い出ですが、思わぬところで、カンボジアに似た風景を日本で目のあたりにしたことは忘れられません。

また、日本とカンボジアが違うという印象を持ったのが「食」と「日本人のマナーの良さ」です。日本では、健康に気を使ったヘルシーな食事を心がけている人が多いと思いますが、カンボジアでは肉や卵を使った料理が主流です。そういう面は、カンボジア人も健康に気をつけた食事をするほうが良いと感じました。さらに、日本人がいろいろルールやマナーを守ったり、まわりの人のことを考えて行動することに驚きました。とても良い意識が浸透している国だなという印象を持ちました。

◆ニーさんのこれからの夢を教えてください。

私は、長崎大学で学んだことや経験を活かして、将来、カンボジア人に健康で長生きできるようにするためのアドバイスや指導ができるようになりたいです。具体的には行政やNGOなどの場で活躍できればと思っています。カンボジアに暮らす人々の生活環境が良くなる活動に携われるよう、今は日本でもっと自分の研究を進めていくことが目標です。

学生時代を謳歌するならやっぱりサークルでしょ。

We Love Circle

長崎大学

落語研究会



2007年夏、市内のホールで行われたの寄席の様子。2年生から4年生が単独で落語を披露し、1年生はそれぞれ自作のコントを披露するのが定番となっています。



和気あいあいとした雰囲気な落語研究会。



噺の役になりきったメンバーの予想外の仕草に、どっと笑いが起ることも。

あなたの笑いを頂戴します！

演者の巧みなしゃべりや身振り手振り、そして聴き手の想像力で噺の世界が広がる落語。室町時代から始まったとされるこの伝統芸能の楽しさを地域に伝えようと寄席に取り組んでいるサークルが長崎大学にあります。

発足して36年目を迎える長崎大学落語研究会では、現在23人の学生が年2回行われる寄席に向けて日々練習を重ねています。落語の魅力はなんといっても何人もの役を一人で演じ分ける演者の技巧。演者の演じ方一つで噺の内容に深みが出たり、聴き手の引き込まれ方に違いが出るのだとか。そこが落語の面白さでもあり、難しい部分でもあると部長の村山さん(環境科学部3年)は言います。

特に噺のオチが既に決まっているような古典落語は、どこに自分のオリジナリティを入れて笑いを起こさせるかが重要なポイント。練習ではメンバー全員でお互いのでき具合を評価し、それぞれが持つ「良さ」に磨きをかけていきます。ここで自分の意外な一面を知るメンバーも多いとか。普段はおとなしいのに、舞台上で落語を語ると、性格が明るく一変するメンバーもいるそうです。噺の役になりきっている姿を見ると、

演者の巧みなしゃべりや身振り手振り、そして聴き手の想像力で噺の世界が広がる落語。室町時代から始まったとされるこの伝統芸能の楽しさを地域に伝えようと寄席に取り組んでいるサークルが長崎大学にあります。



長崎大学落語研究会部長
村山 勇太さん
(環境科学部3年)

「古典落語には長崎にゆかりのある話があり、地元の人なら特に親しみやすいのではないかと思います。地域の方に少しでも落語の楽しさを伝えていけるよう、また、この活動の歴史を絶やさないよう、地道ではありますが寄席の活動を行っていききたいと思います。」

「私たちが、『落語は単なる話芸ではなく、舞台上で演技をすること』をモットーに活動しています。例えば、表現のバリエーションを増やすため、話をするときは自分の表情を意識するなど、普段から気を配っていますね。」という村山さん。最近では、いろいろな表情や仕草を落語の舞台上で演じられるようになりました。また、明るい表情が普段の生活のなかで自然と出てくるようになり、対人関係に幅ができたことも落語のおかげではないかと感じているそうです。落語を通して自分の内面を磨くことができたのは、意外な収穫だったと村山さんは言います。

現在は、毎年行う寄席の他、地域の老人ホームや老人会のイベント、小学校の国語の授業の一環として落語を披露する活動も積極的に行っている長崎大学落語研究会。一席一席にメンバーの工夫が盛り込まれた落語で、あなたも笑いのツボにはまってみませんか？



長崎県高等学校長協会会長

寺田隆士

Terada Takashi

昭和二十二年生まれの私は、この春に定年を迎える団塊世代の一人です。先日、団塊を「だんこん」と発音した女子大学生がいると聞いて赤面しました。この国の若者の知的レベルに赤面したのです。

けなげに「わが実存」の有り様を考えながら生きてきた私たちにとって、名付け親から大量規格品のごとく十把一絡げにされることに抵抗があるのですが、団塊世代と呼ばれることにはもう慣れました。私たちはこれから「こ隠居さん」の仲間入りすることになります。この時に当たって、私には世代の使命としての隠居仕事があると考えています。職業から、隠居する前に説教口調になってしまうのですが、「いいか放題」ということでお許しください。

最近、電車の中で大学生と思しき若者がケータイと睨めっこする姿は見て、読書する姿を見かけなくなりました。そこで言いたいの「大学生は本を携帯しな

い」ということです。

京都大学名誉教授の竹内洋氏が書いた『教養主義の没落』という新書があります。人格形成や社会改良のための読書が学生、生徒の規範文化であった教養主義は、大正時代に興り、一九七〇年前後に大衆化してピークに達したが、その頃を境にして急激に没落したと指摘しています。教養主義の興隆から没落に至る過程を解析した本です。私は、自らの知性と感性を磨き、倫理観を形成するために多くの本を読むことは、教養主義と呼ばずとも、洋の東西を問わず人類普遍の文化であると考えます。わが国では、旧制高校や旧制中学校の規範文化となる以前、すでに江戸時代の藩校や寺子屋の理念として存在しました。だから三〇〇年以上の年月をかけて築き上げられてきたものです。その教養主義没落のきっかけをつくってしまった世代こそ私たちなのです。

が携帯すべきは イではなくて書物

団塊の世代から自責の念と愛を込めて

私たちは、テレビとともに成長し、かつては「テレビ世代」と言われていました。読書離れの1期生です。しかし、本は読まなければならないという確かな規範が意識にありました。試験前に猛烈に読書への欲求が高まり、試験が終わった途端になぜかその思いが消えてしまうのを繰り返した高校時代の思い出があります。教員に成りたての頃、その話をすると「私も」と言う生徒は多かったのですが、今は「別に？」です。

私は、大学入学に際して、古今の名著を読み尽くすぞという意気込みで臨みました。格好の全集出版が始まりました。小豆色の装丁の『世界の名著』です。竹内洋氏が言う大衆教養主義の絶頂期であったのだと思います。ところが同じ頃、若い世代の旗手と目された詩人が「書を捨てて街に出よう」というスローガンを掲げたのです。私は出鼻をくじかれました。でも、「俺にはまだ捨てる本がない」と街には出ませんでした。しかし、このスローガンの影響は大きかったように思います。社会改良のために街中へという呼びかけは、続く世代にはレジャーのために街中へとなり、やがては街中とキャンパスの境がはずれてレジャーランドと化した大学もあるようです。私の世代が大きな転換点で

した。そこで、私たちの世代の責任において教養の復興を言わなければならないと思うのです。

当然ながら、本を読まなければならないという規範は、中学生、高校生時代に植え付けなければなりません。「自ら考え判断する力」の育成が言われていますが、振り返って、私が最もよく自ら考え判断しようとしたのは本と対話している時だったからです。文武両道を唱える高等学校は多くあります。その意味を「学習と部活動の両立」ではなく、今は敢えて「学習と読書と部活動の鼎立」と言い直す必要を感じています。

大学生 ケータイ

●プロフィール

寺田隆士(てらだたかし)

1947年生まれ。島原市出身。1970年東京大学文学部卒業後、長崎県の高校教員となる。専門科目は倫理と日本史。五島南高校、口加高校を経て県教育委員会に勤務。その後諫早高校教頭、県教育委員会、島原高校校長、県教育センター所長を歴任し、2003年から長崎東高校校長。現在、県下初の公立中高一貫教育に取り組んでいる。

2005年4月から長崎県高等学校長協会会長

2006年4月から長崎大学経営協議会委員



ケニアの空の下で



皆川 昇

Noboru Minakawa
長崎大学熱帯医学研究所
ケニアプロジェクト拠点教授

～マラリア撲滅を目指して～

WHOによると、毎年約数億人がマラリアに感染し、少なくとも100万人以上の人が亡くなり、犠牲者の約75%がアフリカの子供達と推定されています。感染地帯では、免疫性が高い大人でも慢性的にマラリアに苦しんでおり、未だにアフリカの貧困がなくなる一因です。そして、長年いろいろと対策がとられてきたにもかかわらず、マラリアの犠牲者はいっこうに減る気配はありません。



ケニア



アフリカ大陸

赤道



ケニア Kenya

首都ナイロビ

キスマ

トナ

キリマ

スバ(Suba)地区

・マラリアフリーゾーン計画地域

・DSS展開地域 (CHOHO20号掲載)

インド洋

ビクトリア湖に沈む夕日

泥まみれになりながらの調査

私が初めてケニアを訪れたのは1997年。首都ナイロビに着いてすぐに、400km離れた西ケニアのスバ地区にあるビタというへんぴな町に派遣されました。ビタは、現在、長崎大学ケニアプロジェクトのフィールド拠点がある町です。その時は、ケニアにある研究所からマラリア蚊の研究を依頼されました。初めてのアフリカで不安はあるものの、マラリアという人類最大の問題解決に貢献できるという使命感で意気揚々とビタへ向かったはずでした。

しかし、不安が的中したことに気が付くのに1日とかかりませんでした。この日は、最後の40kmの道が雨で田圃のようになっており、途中何台もの車が泥の中に埋まっていました。我々の車も泥にはまっては、現地の人引き出してくれ、普段は1時間弱の道が5時間かけてビタに着きました。その年は、気候変動の影響で雨が多く、現地ではマラリアが流行していました。調査のため、雨でぬかるんだ田舎道をどろんこになりながら四輪駆動で走り回っていると、幾度となく現地の人に呼び止められ、病気の子どもを病院に運びました。連れて行った病院には医者がおらず、病人が庭まで溢れかえっており、葉がないこともしばしばありました。

当時は、状況を理解するのに精一杯で、泥の中でもがきつつも、依頼された研究は何もできませんでした。かえって、現地の人にお世話になり、いろいろなことを教えてもらったような気がします。

新たな挑戦「マラリアフリーゾーンを作る」

あれから10年、幸いにも長崎大学のプロジェクトに参加することができ、マラリアに再挑戦できることになりました。町は当時と比べて少し大きくなったような気がしますが、道は大して変わっていませんでした。今のところマラリアを撲滅する決定的な方法はありません。有効なワクチンはまだ開発されておらず、薬もマラリア原虫がすぐに耐性を持ってしまいます。最近では、援助を通して蚊帳が普及しはじめましたが、せっかく蚊帳を手に入れても、暑苦しくなるため使用しなかったり、穴が空いてもそのままにしている場合が多くあります。また、蚊帳は寝ているときは蚊から守ってくれますが、蚊帳の中に1日中いるわけにはいきませんので効果は限定的です。

そこで、プロジェクトでは、マラリア媒介蚊を研究するマラリアベクターチームを結成し、蚊の駆除を通してマラリアをなくすにはどんな方法が良いかを探しています。現在我々は、蚊の成虫を対象にした蚊帳とともに、蚊の幼虫を殺すバイオ殺虫剤の使用を考えています。蚊も人間と同じように細菌により病気にかかります。その細菌の作り出す毒素を使って蚊を殺そうという方法です。蚊にしか効かず、毒素は自然に分解されます。自然に優しいという利点がある一方、持続性が短いという弱点もありますが、フィールドでの実験では、蚊を9割以上減らすことができました。よって、蚊帳などの他の方法と併用し弱点を補うことで、感染を劇的に減らすことができます。これによりビタとその周辺(人口4、5万人)を感染のないマラリアフリーゾーンにしようと計画中です。



① 首都ナイロビからビタ地区へ移動する途中の道路は整備されていないところが多く、このようなぬかるみが何か所もある。



② 湿地帯で蚊の繁殖地の定期調査を行う二見研究員。マラリア蚊の変動をみるモデル地区構築のため、このような湿地帯を中心に蚊の密度などをモニタリングしている。



③ ぬかるみにできた足跡も蚊の格好の繁殖地となる。ちなみにこれはカバの足跡。



④ 各家庭に蚊帳が普及しつつあるが、穴が空いているものもあり、蚊よけの役割を果たしていない蚊帳を使用している家庭も多い。

⑤・⑥ 家の中で蚊を採取する様子。そこで出会った家族とともに、この時子ども名前がまだ決まっておらず、二見研究員の名前(恭子)をそのまま子どもの名前にしたというエピソードも。



⑥



⑤

マラリアをモニターする

それでは、どのようにして、その方法の効果を評価するのでしょうか？

この地域では、大人でもマラリアが蚊によって媒介されているのを知らない人が多くいます。我々は、現在、2週間ごとに村々を回ってマラリア媒介蚊の密度とボウフラの繁殖地の調査を行っています。調査地域には、ビクトリア湖に浮かぶ小さな島も入っており、船で島に着くと多くの子供達が出迎えてくれます。当然、好奇心おう盛な子供達はわいわいと我々の後をついて回りますが、それは、子供達に蚊がどういものであるかを教えるいい機会にもなります。

さらに来年からは、金子さんが展開している人口動態システム(CHOHO20号参照)をベースに、住民の感染と発病状況を定期的にモニターしていきます。そして、このシステムをもとに、バイオ殺虫剤と蚊帳によりどれだけ蚊と病気が減るかを見極めるのです。

マラリア流行を予測する

このような定期的なモニタリングは、マラリア流行を予測するのにも役に立ちます。例えば、10年前の長雨のように近年の気候変動の影響はいろいろな方面で顕著になってきています。そのため、地域内の各村に簡易観測所を設置し、気象状況を自動的にモニターしています。雨が多くなると蚊の繁殖地が増え、また、温度が上がると蚊とマラリア原虫の成長も早くなり流行の原因となるからです。

して、気象データのみで早期にマラリア流行を予測できるモデルを作り上げ、流行に備えて医療体制を整えることができるようになればと考えています。

当然、気候変動の影響は調査地のよう小さな地域に限られるわけではなく、もっと広範囲に起こるものです。気候変化により、マラリア蚊のケニア内での分布域が変わってきているともいわれています。ケニアには主要なマラリア媒介蚊が3種ほどいますが、まだ、現在の分布でさえ詳しくは調べられていません。それぞれ、生態や気候に対する適応力が違うため、現在の分布を知ることが、将来の気候変化にもなる分布変化と流行を予測する上で不可欠です。よって、来年から二見研究員を中心にケニア各地で蚊の採集を行い、詳細な分布地図を作る予定です。また、マラリア蚊だけでなく、デング熱やリフトバレー熱などを媒介する蚊の分布も同時に調べる予定です。

マラリアフリーゾーンを維持する

マラリアを一時的に無くしてもそれを継続していかねばマラリアはすぐに戻ってきます。それには、地元の人が管理できる、地域に合った持続可能なシステムを作り上げる必要があります。もちろん地域住民の理解なしにはできませんから、マラリアに関する知識を広める教育も必要です。当然費用もかかります。このようなシステム作りも立派な研究であり、それには、技術的な研究以外に、経済学、社会学、人類学などいろいろな分野からのアプローチが不可欠です。



10

- 10 腕の血を吸う蚊の様子。後部から余分な水分を排出し、体内で血液を濃縮する。
- 11 長崎大学からの研修生を交えての蚊のフィールド調査。
- 12 海外の研究者からも注目されており、2007年9月には、イギリスの著名な研究者であるチャールウッド博士が見学に訪れた。左側の女の子2人は、エイズ孤児で、近所のおばさんに自分の子どものように育てられている。右側はおばさんの実子。



12



11



8

- 7 マラリアの流行に関わるとされる気象変動をモニターする気象観測装置。
- 8 実験用のマラリア蚊を飼育しているケージ。
- 9 現地で蚊の採取をすることで、現地調査員が地元の人や子どもたちにマラリアと蚊の関係を教育する機会が持てる。



7



9

マラリアが撲滅されると?

マラリアが撲滅されれば住民の生活も変わるかもしれません。病気で休む人も少なくなり、労働効率が上がります。経済が発展するかもしれません。しかし、逆に、人口が増え、新たな問題が起る可能性もあります。少なくともマラリアで死ぬ乳幼児が減り、悲しむ母親の数が減ることは確かです。マラリア感染をなくすだけでなく、この疑問の答えを探するために研究を継続していくのも我々の使命と考えています。

研究を通して学ぶ

アフリカ大陸では、小さな地域でもマラリアをなくすことは大変なことです。成功したら、ここでの成果や経験は他の地域でマラリアをコントロールする上で貴重な情報となるはずで。是非、このプロジェクトがアフリカからマラリアをなくす上でのモデルとなればと考えています。また、このプロジェクトは、ただ病気をなくすだけでなく、病気をなくす過程、なくなった後の影響を研究という目を通して、多くのことを観察し、考え、学べる貴重な時間を与えてくれます。病気とは何か、人間と病気との関わりとは何かという哲学的な命題を問いつめる機会にもなります。そして、このようなプロジェクトは、多くの人が関わることでよりよくなるものです。現在、ベクターチームは、日本人2名、ケニア人10数名で活動しています。是非、多くの若い日本人にも加わってもらい、一緒に考え、学び、行動し、アフリカの子供たちの命をできるだけ多く救いたいと思っています。

長崎の安全と安心と地震と

工学部安全工学教育センター
高橋 和雄教授
Takahashi Kazuo



① 長崎市の斜面地(長崎都市計画部提供)



② 斜面地の婦人防火活動(長崎都市計画部提供)
斜面地では、消防車が進入できない道が多く、火災を起こさない日頃の備えと、近隣の協力による初期消火活動がきわめて重要です。

2004年新潟県中越地震(M6.8)、(注1)、2005年福岡県西方沖地震(M7.0)、2007年能登半島地震(M6.9)、2007年新潟県中越沖地震(M6.8)等のように、これまで発生が想定されていなかった地域で、相次いで被害を伴う地震が発生しています。福岡県西方沖地震時に、長崎県内でも吉崎市を中心に住宅、港湾・漁港等に被害が生じ、津波被害のおそれもありました。最近の地震発生状況から、M7ク

ラスの地震は全国どこでも発生するという認識が一般的となっています。科学技術の進歩により、起こりうる地震の規模の想定、発生する地震動及び地震に伴う建物被害や死傷者の予測が出来るようになっていきます。被害の予測が出来れば、被害を減らすための対策にも取り組めます。今回は、長崎県における地震被害の予測と被害の軽減策を紹介します。
(注1)M(マグニチュード) 地震の大きさ(規模)を表す数値。

長崎県の災害環境

長崎県内には雲仙活断層群等があり、大規模な地震が発生する危険性があります。また、長崎県は平地が少なく、人口集中地区では斜面に住宅が密集しています(写真1)。福岡県西方沖地震による玄界島の斜面地のような被害が発生することが心配されます。離島・半島地域も多く、道路、鉄道、ライフライン等のネットワークが形成されておらず、人命救助、消火活動、給水活動等の災害応急対策が行いにくいという地形的な要因による弱さを持っています(写真2)。さらに斜面地、離島、中山間地域では人口減少、高齢化、過疎化が進み、地域社会が災害に対して弱体化しつつあります。

長崎県における地震による被害の発生状況

地震による被害は島原半島や橋湾に多く、60年間に1回程度の割合でM6クラスの地震が発生しています。1792年の地震(M6.4)による眉山の崩壊に伴う津波災害は、我が国最大の死者15,000人を記録し、「島原大変・肥後迷惑」として人々に伝承されています。20世紀以降では1922年の島原地震(M6.9)、M6.4は県下で死者が記録された唯の地震で、死者は26人、被害家屋は2,000棟を超えました。これは九州での地震の揺れによる死者としては最大です。島原半島以外では、県内で死傷者の記録はありませんが、1922年の島原地震で長崎市で震度5(注2)を記録しました。吉崎市、対馬市では、1700年に県下で最大規模の地震(M7.0)が発生しています。

長崎県内の活断層は どうなっているか

平成14~16年度に実施された雲仙活断層群調査によれば、多くの活断層が、西側の橋湾から島原半島を通り東側の島原湾まで連続的に分布し、全体で雲仙地溝を形成しています。雲仙活断層群は、その特徴から雲仙地溝北縁断層帯、雲仙地溝南縁東部断層帯及び雲仙地溝南縁西部断層帯の3つのグループに区分されています。海底でも橋湾西部断層帯と島原沖断層帯が確認されています。また、詳しい調査はされていませんが、大村市から諫早市北西付近、西彼杵半島北端、佐世保市北部、吉崎市南部等にも活断層が確認されています。
(注2)震度 ある場所での地震動の強さを表す数値。気象庁の震度階級数は阪神・淡路大震災後に震度0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強及び7の10段階に分けられています。

長崎県内に被害を及ぼす活断層の想定と震度予測

活断層調査の成果を基に、長崎県内に被害を及ぼす地震の震源となる活断層の想定、その震源特性の評価が検討された結果、県内活断層として、(図1)に示す6個の活断層が想定されました。

想定活断層を震源とする震度予測の一例を(図2)に示します。一般に震度が5弱で建物に影響が始め、震度6弱を超えると一般の建物では倒壊することがあります。雲仙地溝北縁断層帯(M7.3)、雲仙地溝南縁東部断層帯と雲仙地溝南縁西部断層帯

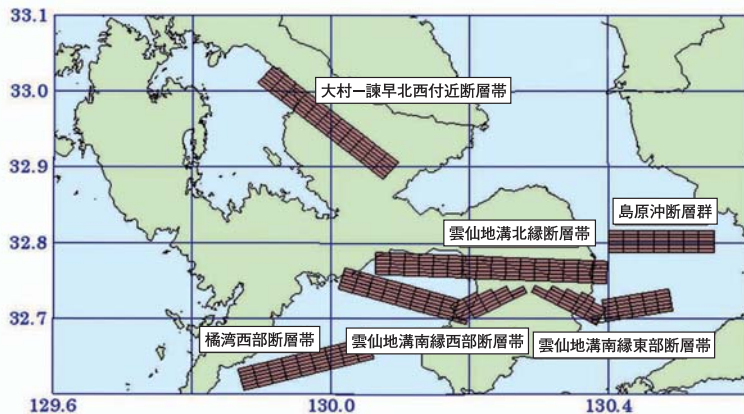


図1 震源となる活断層の位置(出典:長崎県地震等防災アセスメント調査報告書(委員長 高橋和雄長崎大学教授),2006.3)

帯の連動(M7.7)及び大村-諫早北西付近断層帯(M7.1)による地震では震度6強が現れる地区が存在します。雲仙活断層群及び大村-諫早北西付近断層帯による地震では、島原半島や大村市、諫早市から離れた五島市、吉崎市、対馬市、平戸市等では震度5弱以上の地震は発生しません。しかし、これらの地域でも、直下に地震が発生した場合には、震度6強の地震になることが予想されます。

地震被害の予測

地震動の大きさを基に地震時の地盤の液化化、斜面崩壊、建物倒壊、火災発生、津波等による物的被害の予測が出来ます。

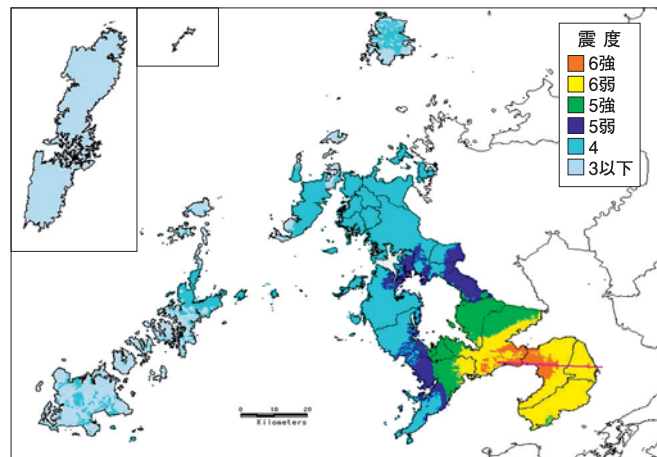


図2 地表における推計震度分布(震源:雲仙地溝北縁断層帯)(出典:図1と同じ)

(1)建物被害 建物被害予測のうち、揺れ、液状化(注3)、(写真3)及び斜面崩壊等による建物の大破棟数を(表1)にまとめています。これによると、揺れによる被害が大多数を占めます。

(2)人的被害 想定地震による死者を地震による揺れ、斜面崩壊と火災に対してまとめると(表2)の結果となります。揺れによる死者は木造建物の大破棟数が多い場所、すなわち、雲仙地溝北縁断層帯の地震における島原市の市街地や大村-諫早北西付近断層帯の地震における大村市の市街地が多く、加えて、長崎市や諫早市での人口密度が高い地区で多い結果となっています。

地震による被害の予測が出来ると、最近では地震防災戦略が策定され、実効性がある対策が検討されています。地震防災戦略は、減災目標と具体目標から構成され、減災目標とは、死者、経済被害の軽減に関する具体的な目標を明示します。具体目標とは減災目標の達成に必要なとされる事項ごとに達成すべき数値目



③ 福岡県西方沖地震による地盤の液化化 2005年3月27日撮影(九州大学大学院 善功企教授提供)
国営海の中道公園における液状化の様子。園内の光と風の広場には被害跡の一部を復元保存した震災学習展示施設があります。

表1 建物の大破棟数(揺れ、液状化、斜面崩壊等による被害) 全棟数 654,296棟

想定地震の震源活断層	揺れ	液状化	斜面崩壊	合計(%)
雲仙地溝北縁断層帯(M7.3)	18,705	239	361	19,305 (3.0)
雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動(南縁連動)(M7.7)	33,389	290	583	34,262 (5.2)
島原冲断層群(M6.8)	1,476	32	10	1,518 (0.2)
橋湾西部断層帯(M6.9)	298	76	178	552 (0.1)
大村-諫早北西付近断層帯(M7.1)	5,421	247	254	5,922 (0.9)

表2 地震による死者数の推計 県内の総人口 1,498,963人

想定地震の震源活断層	死者(人)					耐震化対策による減少率(%)	
	建物(現状)	斜面	火災		計		
			夏5時	冬18時			
雲仙地溝北縁断層帯	773	178	137	207	1,088	263	66
雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動	1,689	312	149	234	2,150	757	55
島原冲断層群	25	3	8	15	36	2	92
橋湾西部断層帯	14	110	3	42	127	1	93
大村-諫早北西付近断層帯	238	153	33	52	424	75	68

標、達成時期、対象の内容等を定めるものです。長崎県においても今後10年間に死者数を半減させるとする減災目標を掲げ、これを実現するための具体目標を掲げたアクションプランが策定されました。

減災目標の事項は、斜面や防波堤等の防災工事、情報伝達等の国・県・市町が主体となる「公助」に加えて、人命救助、初期消火等の地域・コミュニティが主体となる「共助」と耐震補強、家具の固定、ブロック塀の補強等の個人が主体となる「自助」から構成されます。減災には「公助」と「自助」の役割が大きいことが明確になっています。

(注3)液状化 水を多く含んだ緩い砂地盤が地震の揺れによって、地盤から水や砂を噴出したり、地盤が液体のようになってしまう現象。

人的被害の軽減の鍵は 建物の耐震化

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災(M7.3)では、6,400人が死亡する大惨事となりました。死亡の理由は、建物の倒壊による圧死と、住宅密集市街地等において建物の倒壊に加えて発生した火災による焼死でした(図3)。1981年に改定された建築基準法によって設計された建物の倒壊は少なく、これ以前に建設された耐震診断が必要な建物において多く発生しました。長崎県内でも耐震性が不足する建物が31%を占めていると推計されています。被害予測の計算において古い建物を耐震性が高い新しい建物に置き換える耐震化で人的被害が大幅に減少します(表2)。人的被害を軽減する耐震化の効果を具体的に示す資料となっています。遅れた住宅の耐震化は緊急の課題で長崎県においても長崎県耐震改修促進計画が2007年8月に策定され、一般住宅の耐震化率を現状の69%から90%にする目標を立てました。耐震改修を支援するための補助・税の減免の制度も導入され

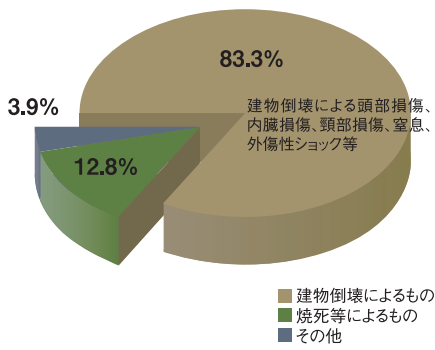


図3 阪神・淡路大震災における犠牲者(神戸市内)の死因
出典:「神戸市内における検死統計」(兵庫県監察医 平成7年)

ています。建物の耐震化は、都市に住む市民の責務といえます。

公共施設についても、耐震性が低い建物の耐震改修が進められています。長崎大学でも耐震性の確保と機能改善を目的に校舎の改修工事が急ピッチで進められています(写真4)。



4 工学部校舎の改修工事 2007年3月撮影(長崎大学施設部提供)
校舎の改修部分には建物内に鉄骨ブレース(斜材)による耐震補強がなされています。

近隣の協力が 被災者の命を救う

阪神・淡路大震災において、家屋の倒壊、火災等によって救出が必要となった35,000人のうち、約80%が家族や近隣者により救出されました。特に、震源直近の淡路島の北淡町では、家屋の倒壊により多くの人が生き埋めとなりましたが、地元住民が自発的に始めた救助活動により全員が救出され、安否の確認も当日の夕方までになされました。顔見知りの近隣の付き合いが、所在不明者の要救出者の安否確認に役立ったことを示すものです。阪神・淡路大震災だけでなく、福岡県西方

沖地震の被災地玄界島(写真5)や水害や土砂災害の被災地も同じで、消防・警察が到着するまでに、要救出者の救助や安否確認に役立っています。大規模な災害では、消防や警察等の防災機関の対応力に限界があるためにすべての救護の要請に応えることが出来ません。地域が主体となる共助が必要です。



5 玄界島斜面の被災建物 2005年5月7日撮影(高橋和雄撮影)
福岡県西方沖地震で玄界島の斜面の住宅の8割が全半壊しましたが、日頃の備え、近隣の協力によって、死者はありませんでした。また、火災の発生もありませんでした。

備えに勝る対策なし

地震対策は発生直後の災害応急対策(被害の把握、情報伝達、人命救助、初期消火等)だけでなく、建物の耐震化の他に家具の固定、ブロック塀の補強等の地震への備えをする災害予防対策が重要です。災害時に適切に行動するためには、知識の習得とともに、避難訓練(写真6)が必要です。あなたも我が家の地震対策、地域の地震対策を考えてみませんか。



6 地震に備えた小学校の避難訓練 1990年11月24日撮影(島原市災害対策課提供)

1990年11月17日の雲仙普賢岳の噴火開始直後に、島原市立第五小学校で行われた避難訓練。198年前の寛政の噴火の後に眉山崩壊につながる地震が発生したことから、地震対策が検討されました。

若い世代に期待する

地震対策の進歩に伴い防災マップの作成、災害伝言ダイヤル「171」、緊急地震速報等の情報ツールはかなり整備されてきました。また、私たちが取るべき対処法も明確になっていますが、高齢化、過疎化が進む地域社会での取り組みはまだ活発とはいえません。安全・安心に価値を見出し行動し、減災社会の実現に向けた動きのひろがりが必要です。災害知識を魅力的な形で分りやすい形で提供することや幅広い団体・組織間の連携の促進について、大学がインターフェイスになることが期待されています。研究室での研究活動に加えて学生サークル、ボランティアの活動が防災の仕掛け人になります。ここ四半世紀にわたって活躍した防災の担い手が世代交代の時期を迎えています。防災にかかわる人材の新たな参加を得たいと願っています。



環境科学部創立10周年記念式典を挙

9月29日、「環境科学部創立10周年記念式典・祝賀会」をウエルシティ長崎で開催しました。

記念式典では、内外関係者約150名が参加し、佐久間環境科学部長の式辞の後、永山賀久文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長が祝辞を述べられました。引き続き、高柏園淡江大学副学長、西岡武夫氏ら5人の国会議員、長崎県知事(代読)、長崎市長(代読)及び福地茂雄アサヒビール株式会社相談役から祝辞が述べられた後、齋藤学長と山口睦環境科学部同窓会緑友会会長から挨拶がありました。

式典の後開催された祝賀会では、各界からの祝辞の後、鏡開きが催され、環境科学部の10年の歩みを語り合い、浦晟放送大 学長崎学習センター所長の万歳三唱で盛会のうちに終了しました。



祝賀会での鏡開き



式辞を述べる佐久間環境科学部長



祝辞を述べる 福地アサヒビール(株)相談役



祝辞を述べる永山文部科学省 高等教育局国立大学法人支援課長



祝辞を述べる西岡参議院議員

長崎大学名誉校友称号第3号を 下村脩氏に授与

長崎大学の卒業生で各界において顕著な功績を挙げ、長崎大学の名誉を高めたとする長崎大学名誉校友の称号授与式が10月20日に中部講堂で行われ、第3号の名誉校友と



下村氏に名誉校友記を授与する齋藤学長



名誉校友記

して、下村脩氏(米国在住)に称号が授与されました。

当日は、長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター講演会があり、同氏も講演が予定されていたため、この講演に先立ち、齋藤学長から授与されたものです。

下村氏は、世界で初めてオワンクラゲより緑色蛍光タンパク質等を発見した、生物発光分野での世界的な研究者であり、その研究成果の重要性は、この2年間ノーベル生理学・医学賞にノミネートされていることや、平成18年度の朝日賞を受賞されたことでも証明されています。



謝辞を述べる下村氏

平成19年度「夢募集」表彰式を挙

10月22日、平成19年度「夢募集」の表彰式を行いました。

「キャンパスライフを活性化あるいは充実するための学生自身の企画・提案」を学生から募集する「夢募集」は今回で9回目であり、応募があった13件から、大賞1件、努力賞5件が選考されました。

表彰式では、福永理事、濱理事及び審査員同席のもと、齋藤学長から大賞及び努力賞を受賞した学生に表彰状と目録が授与されました。



記念写真

平成19年度「夢募集」審査結果

夢大賞	広めよう!みんなのラーニング・ティップス
努力賞	エコできれいなキャンパスを!~長大から長崎へ~
	乳がんガイドブック~乳がん向き合うあなたと家族へ~
	国際協力に挑む学生たちの受け皿、学生NGOを長崎大学に!
	犯罪が起こらない長崎県を目指して~大学生にできること~
	交流する大学~屋上庭園からの発信~

学長賞 授与式を挙

なお、大賞は歯学部3年生甲田泰之さんの「広めよう!みんなのラーニング・ティップス」で、本学のホームページで公開されている初年次学生向けの学生生活ヒント集を、冊子にして新入生に配布するというものです。

学長賞は、卒業又は修了時において特に優秀な成績を修めたと認められる学生、学術研究活動において顕著な業績を挙げたと認められる学生又は学生団体、課外活動において優秀な成績を挙げたと認められる学生又は学生団体等を表彰するために設けられた制度です。

今回、学生5名、大学院修了生1名、学生団体3団体に学長賞が授与されることになり、11月8日に授与式が行われました。

学長賞を授与された学生、大学院修了生、学生団体は次のとおりです。



授与式終了後の記念撮影

学術研究活動	表彰事由	氏名
	日本ゴム協会第54回優秀論文賞受賞	生産科学研究科 入江 誠
課外活動	第3回「7行ボエム大賞~7行ボエムdeラブレター~」審査員推薦賞受賞	教育学部 村山美菜子
	2006オールジャパンテコンドーフェスティバル一般男子有段-58kg級「第2位」	全学テコンドー部 多良慎介
	第54回九州国公立水泳競技大会 男子100mバタフライ「第1位」 男子200mバタフライ「第1位」	全学水泳部 中村聖宏
	第67回九州学生選手権水泳競技大会 男子2部100mバタフライ「第1位」	
第57回九州地区大学体育大会 男子100mバタフライ「第1位」		

課外活動	表彰事由	氏名・団体名
	第54回九州国公立水泳競技大会 女子400m自由形「第1位」	全学水泳部 大賀清花
	第51回全日本カッター競技大会 男子レース「第2位」	水産学部男子端艇部
	第51回全日本カッター競技大会 女子レース「優勝」	水産学部女子端艇部
	第46回九州・山口医科学学生体育大会「優勝」	医学部サッカー部
	ヘラルド朝日英語論文コンテスト優秀賞受賞	教育学部特別聴講学生 カリーナ ネーサ マニユエル アバッド

学長が在長崎 オランダ王国 名誉領事に就任

在長崎オランダ王国名誉領事に、10月15日付けで本学の齋藤寛学長が就任し、11月9日、アルフォンス・ハーメル駐日オランダ王国特命全権大使等の立ち会いの下、本学学長室で宣誓式が行われました。

本学は、これまでもオランダ人留学生の受け入れ等を通じ、日蘭両国の架け橋となる人材育成に取り組んでおり、今後、齋藤学長は名誉領事として、オランダと日本の文化、学術、経済などにおける更なる交流を促進すると期待されています。



宣誓後オランダ大使と握手する齋藤学長

～近代的地震工学の原点となった災害写真～



●古写真DATA●

長崎大学附属図書館蔵

- ◎目録番号:1619
- ◎撮影者:日下部金兵衛
- ◎アルバム名:日下部金兵衛アルバム
- ◎撮影地域:岐阜
- ◎年代:年代未詳
- ◎色彩:カラー
- ◎形状:262x202
- ◎整理番号:39-1-0
- ◎キーワード:橋

ホームページでもご覧いただけます。

<http://hikoma.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>

【濃尾大地震(東海道本線長良川鉄橋)(21)】

Great Nobi Earthquake (iron bridge over Nagara River on Tokaido Main Line)

〈解説〉

幕末から明治中期に撮影された古写真により、近代化する日本の姿が海外に紹介された。これらの写真の中には、被害が撮影されたものがある。日本の荒々しい災害、台風や地震の被害が古写真により、欧米に紹介された。中でも有名なものが、「濃尾地震」を撮影した古写真である。明治24年(1891)10月28日、午前6時37分、岐阜県本巣郡根尾村を中心としてマグニチュード8の巨大地震が発生した。内陸に起きた地震としては、世界的にも最大級の規模であった。後に「濃尾地震」と名づけられた。

根尾村水島には、上下のずれが最大6mにもなる断層が生じた。これは、全長80kmに及ぶ大断層の規模を象徴的に示すものとして、小藤文次郎博士が論文で紹介し世界的に有名になった。この断層は後に「根尾谷断層」と命名され、教科書に地震の被害として紹介され、日本の地震の国民的な象徴となった。現在、国指定の特別天然記念物に指定されている。

この写真は、濃尾地震により落橋した東海道本線の長良川に架かる「長良川鉄橋」を撮影したものである。震災後に訪れたイギリス人のバルトン(W.K. Burton)またはミルン(J. Milne)の撮影によるものであろう。この鉄橋は英人C.A.W.ポナール(C.A.W. Pownall)により設計され、明治21年(1888)1月に架設された、当時のわが国が誇る最大級の鉄道橋であった。地震直後の写真なので、明治24年(1891)11月初旬の撮影であろう。長良川鉄橋5連の内の3連の橋が落橋した。中央部の長い橋脚が、2カ所両端とも完全に倒れ、そのまま川底に落ちこんでいる様子が撮影されている。

長崎大学附属図書館の「幕末明治期日本古写真コレクション」の中で、濃尾地震の写真は一冊のアルバムになっている。写真のように彩色された超高精細な写真は、芸術写真の域に達し、今から百数十年前の災害の姿を生々しく現在に伝えている。激しい地震にさらされる日本の災害を初めて世界に紹介し、また日本の近代的地震学、地震工学の原点となった記念すべき一群の写真である。

編集後記

わが国の西洋医学の発祥地は長崎であり、その伝統と誇りを受け継ぐ長崎大学医学部は、創立150周年を迎えました。150年の歴史を振り返りながら、地域医療への取り組みの様子や医学部の将来像などについて記載しております。お伝えしたい内容が多すぎて、絞込みがたいへんでした。受験生の皆様には、特に医学部生による「医学展」の開催は、たいへん興味深くご覧いただけるのではないのでしょうか。

「いいか放題」では、高校側から今の学生へ「ピリ辛のメッセージ」をいただきました。「大学生が携帯すべきはケータイではなく書物」、まさに至言です。たいへん便利で豊かな世の中になりましたが、それと引き換えに、なにか大切なものがどんどん失われているように思います。学校教育の現場でも例外ではありません。日頃から思っていたことを寺田先生にズバリご指摘いただきました。

新たな年を迎えました。今年も昨年同様、本誌をご愛読くださるようよろしくお願いいたします。

(原田哲夫)

[編集・発行]

長崎大学広報企画委員会
(広報誌企画・編集専門部会)

[部会長]-----

原田 哲夫(工学部教授)

[委員]-----

堀内 伊吹(教育学部教授)
吉田 高文(経済学部准教授)
高橋 和雄(工学部教授)
若木 太一(環境科学部教授)
小林 信之(歯学部総合研究科教授)
堀尾 政博(熱帯医学研究所教授)
佐々木 均(医学部・歯学部附属病院教授)
道脇 達樹(総務部総務課長)

TEL. 095-819-2014

FAX. 095-819-2024

(E-mail)

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日] 2008年1月1日



古紙配合率70%再生紙を使用しています。

入学試験情報

■大学入試センター試験

日時 平成20年1月19日(土)から20日(日)まで

■長崎大学一般選抜試験

出願期間 平成20年1月28日(月)から2月6日(水)まで

◎前期日程

試験日 平成20年2月25日(月) (医学部医学科のみ26日(火)まで)

合格者発表 平成20年3月7日(金)

入学手続 平成20年3月14日(金)、15日(土)

◎後期日程

試験日 平成20年3月12日(水)

合格者発表 平成20年3月21日(金)

入学手続 平成20年3月26日(水)、27日(木)

3/25 卒業式
TUE

日時 平成20年3月25日(火)10時から

場所 長崎ブリックホール

4/8 入学式
TUE

日時 平成20年4月8日(火)10時から

場所 長崎ブリックホール

☆イルミネーション点灯中☆

母国を離れた留学生に心を癒してもらおうと、平成19年11月30日から平成20年1月20日までの毎日、17時30分から22時まで留学生センター横でイルミネーションを点灯中です。



表紙について

「にっぽん」

教育学部情報文化教育課程
芸術文化コース美術分野 3年
南 良平

雑誌の表紙のためのイラストです。「日本らしさ」をコンセプトとして制作しました。時間をかけて1つ1つのパーツをバランスよく配置し、配色は江戸時代の浮世絵を参考しています。空や海などの部分には写真を合成することで、作品全体がよりリアルでポップになるよう工夫しました。



<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>